

ブランド米『いちほまれ』の品質・収量アップ↑を目指して!!

いちほまれ

いちほまれ栽培



JA福井県

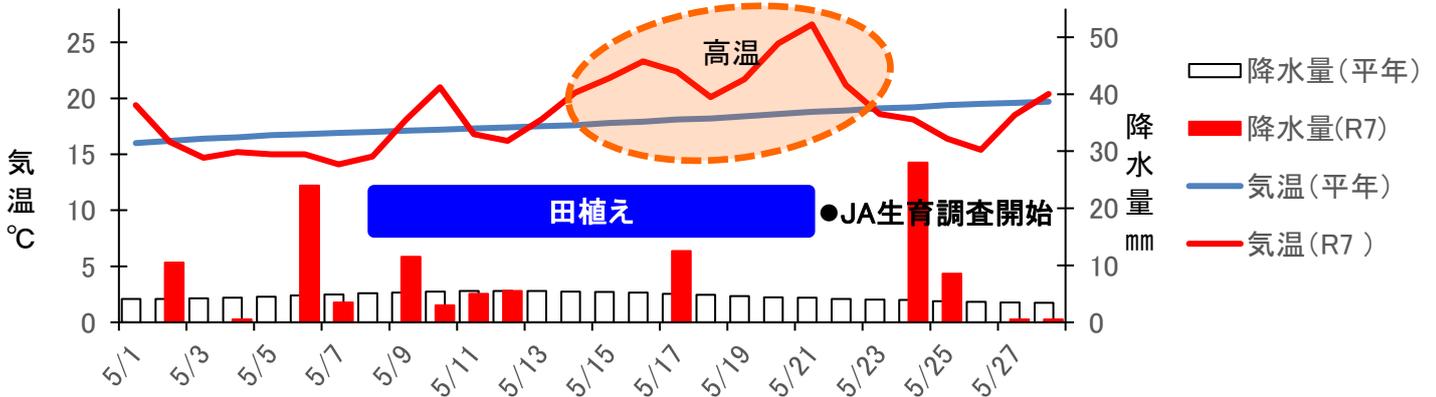
【適正な水管理と病害虫情報】

- 浅水管理(水深2~3cm程度)で分けつ促進!!
- 除草剤散布後は、落水・かけ流しをしない!!

各地区でいちほまれの田植えが落ち着いてきており、5月中旬植えのいちほまれをはじめ活着は良好に進んでいます。気象庁より向こう1か月の予報が出ております。期間の前半は気温の変動が大きいので、栽培管理には注意しましょう。また本県では例年6月上中旬が梅雨入りの目安です。これからの天気まわり十分に確認し、水管理と軽めの田干しをおこないワキ(ガス)の発生を抑えましょう!

1. 気象状況(5月)

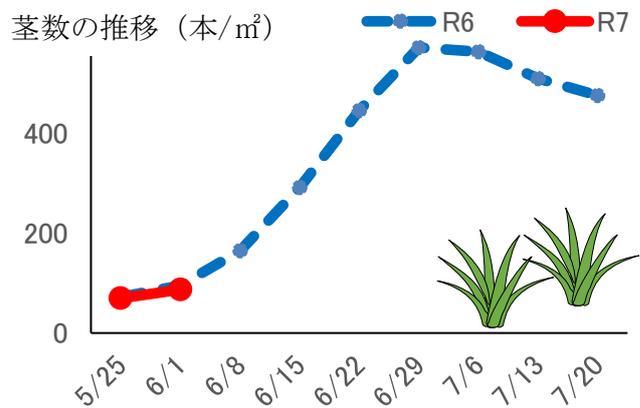
- 5月上旬は平年より気温が低く、局地的にまとまった雨が降り降水量が多い日もありました。5月中旬から気温が平年より(+5℃以上)高い日が続きましたが天候には恵まれ田植え作業は順調にすすみました。



2. 生育調査状況(5月30日現在)

いちほまれの生育状況は順調に活着し、草丈は平年並みに生育していますが、茎数はやや少なく、葉色は平年よりやや濃い状況です。今後気象変動に注意し、細やかな栽培管理を心がけましょう。

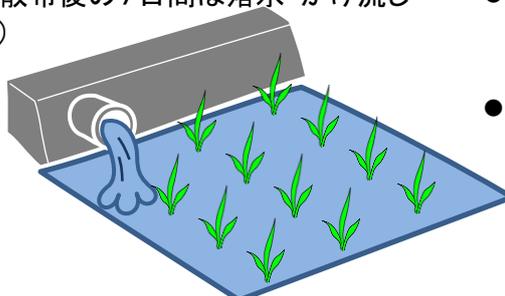
栽培区分	平均作業日	草丈(cm)	茎数(㎡)	葉色
移植	5月18日	20.9	86.9	3.1



3. いちほまれ栽培ポイント

【水管理の徹底】

- 浅水管理：水深2~3cmの浅水管理で分けつを促進する。
- 除草剤散布後：除草剤散布後の7日間は落水・かけ流しをしない。(効果を高める)
- 極端な深水は行わない：稲の徒長や分けつ抑制につながるため避ける。



【病害虫発生と対策】

- ニカメイチュウ(ニカメイガ)の発生に注意!!
- 発生盛期：平年よりやや遅く、5月末頃。福井平野の北部は、毎年発生量が多いため注意する。
- 防除時期：ニカメイガに登録のある育苗箱施用殺虫剤や種子塗抹処理殺虫剤を施用していない圃場は防除する。



ブランド米「いちほまれ」のお問い合わせは、担当営農指導員までお願いします。